



学校図書館だより 6月 臨時増刊号

令和2年6月26日
荒川区立第三中学校
校長 小柴 憲一
学校司書 西岡 薫

図書館での貸し出しを始めます



来週29日、月曜日から、放課後、図書館に来館しての貸し出しを始めます。

借りたい本があったら、その本を持って、カウンターへ行きます。学年クラスと名前を伝え、個人バーコードと本のバーコードを読み取ってもらってください。本の返却は、カウンターには並ばずに、図書館前のボックスか、返却用のブックトラックに入れてください。簡単な手続きで、貸し借りができますので、活用してください。

学校図書館では、感染予防に留意しながら、環境整備に努め、皆さんが落ち着いて本と親しめるようにしていきます。利用案内をよく読んで、1人1人が自分を管理し、皆さんで気持ちよく学校図書館を利用しましょう。

図書館利用案内

- ・利用時間 … 放課後 終学活終了後～17時まで
※但し滞在時間をなるべく短めに。
- ・貸出冊数・期間 … 1人 5冊まで 2週間借りられます

○リクエスト用紙による貸し出しも、これまでと同じように受け付けます。

リクエストした本が届いたら、連絡がいきますので、図書館に本を受け取りに来てください。

昼休み貸し出しについては、状況が整い次第開始します。開始時期がきまり次第お知らせします。

～新しい生活様式と学校図書館～



一度手に取った本は、棚に戻さずに、ブックトラックへ置いて。

- ・図書館に入る前に、手洗いをお願いします。
- ・本の返却は、図書館前にあるブックトラックの箱か、図書館内の指定のブックトラックに入れます。一度本棚から抜いて手に取った本も、棚に戻さずに、返却用ブックトラックに入れてください。
- ・図書館内では、必要以外の私語はしません。
- ・閲覧用の机を利用する場合は、マークのない場所に座ってください。
- ・カウンター前は、足元のマークを目印に、間隔をあけて並んでください。

※一度手に取った本、返却された本は、感染予防のためブックトラックに別置き、表紙の消毒作業を行い、24時間は、同じ本の貸し出しを行いません。図書館内は使用后、毎日、消毒清掃作業を行います。

※今月の図書館内の展示コーナーは、【学校・友だち・ココロに効く本】・【部活動応援コーナー本】です。何か読みたいけれども、どんな本がよいかよくわからない。そんな生徒は参考に見てください。

(裏面へ 展示コーナー本の紹介)

～今月の展示コーナーから～



学校・友だち・ココロに効く本

『友だち幻想』 菅野 仁 著



「みんな仲良く」というプレッシャーに苦しんでいる君へ。友だちは大切。でもなぜこんなに友だちとの関係で傷つき悩むのだろう。人と人との距離間隔をみがいて、うまく生きてゆけるようになるための本。

『なによりも大切なこと』 あさのあつこ 著



どんなふうに生きたいか？どんな大人になりたいか？友だちのこと、学校のこと、ふと迷った時、ゆれた時に背中を押してくれるような言葉が集まっている、お守りのようなメッセージブック。

『クラスメイツ』 森 絵都 著



24人のクラスメイト。その一人ひとりを主人公にした24のストーリー。中学校の入学式から1年生の終了式までを描いている。希望あり、絶望あり、涙あり、笑いありの中学校生活。

『多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ』 Jam 文



こちらがモヤモヤ悩み、落ち込んでいる時、その気持ちを作った相手は意外とパフェでも食べてのんきにやっているかもしれない。心をゆるく軽くさせる、自分の考え方をほんのちょっと変えることを教えてくれる。

『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎 著



勇気、いじめ、友だち、学問、差別。人間として大切なことは？作者の吉野源三郎さんが子どものために、人間はどう生きるかという哲学をやさしく教えてください。80年読み継がれてきた名著。

『「空気」をよんでも従わない』 鴻上 尚史 著



どうしてこんなに周りの目が気になるの？どうして先輩に従わないといけないの？どうしてラインがこんなに気になるの？それはあなたが弱いからではなく、理由があります。そのヒミツを知れば、あなたはうんと生きやすくなります。

部活応援特集本

『楽隊のうさぎ』 中沢けい 著



引っ込み思案の中学生・克久は、入学後ブラスバンド部に入部する。先輩や友人、教師に囲まれ、全国大会を目指す毎日。少年期の多感な時期に、戸惑いながらも音楽に夢中になる克久。やがて大会の日を迎え…。毎日がブラス！ブラス！吹奏楽少年の物語。

『走れT校バスケットボール部』 松崎洋 著



都立T校のバスケット部は、創部以来、公式戦で勝ったためしがない弱小チーム。ある日、部員の俊介が交通事故に遭い、右手を切断することに。だが、入院先で知り合ったモーガンがある提案を…。

『さいとう私立さいとう高校野球部』

あさのあつこ 著



中学で野球部に所属していた山田勇作は、訳あって高校では帰宅部で自由を満喫。ところが野球部に勧誘され、お試し入部をしてみると、独創的な練習方法に驚きの連続で…。

『僕は上手にしゃべれない』 椎野直哉 著



小学校の頃から吃音に悩んできた悠太は、中学校入学式の日、自己紹介のプレッシャーに耐えられず、教室から逃げ出してしまう。なんとかしたい思いから、「誰でも上手に声が出せるようになります」という部活勧誘のチラシの言葉にひかれ、放送部に入部する。